

海外支援プログラム実験終了報告書

2017年10月16日

実験者1 (氏名・所属) : 間宮広明・物質・材料研究機構
実験者2 ^(*1) (氏名・所属) :
研究代表者 (氏名・所属) : 間宮広明・物質・材料研究機構
中性子散乱課題番号・装置名 : SANS-U・17808
実験課題名 ^(*2) : 中性子小角散乱測定による耐熱超合金中の超微細析出物の評価
利用施設・装置 : ANSTO QUOKKA - Small-Angle Neutron Scattering
利用期間 : 2017年10月10日 ~ 2017年10月12日
実験の概要 ^(*3) : 高い耐熱性を示す航空機用チタン合金(Ti-Al-Zr-Sn)鋼であるが、高温応力下の使用中に析出する超微細ナノ粒子については不明な点が多い。そこで、今回は、様々な熱処理・クリープ処理を施した試料についてナノ析出粒子の粒径や数密度の変化を明らかとするため ANSTO QUOKKA にて小角中性子散乱を測定した。

(*1) 1人のみ支援を受けた場合は空欄でお願いします。

(*2) 物性研中性子共同利用で採択された課題名です。

(*3) 簡単な記述で構いません。この報告書の提出をもって、旅費が支給されます。また、実験終了後2ヶ月以内に物性研 ISSP-NSL Database (<http://quasi.issp.u-tokyo.ac.jp/db/index.php>)から activity report の提出をお願い致します。